

ヤマハ株式会社

2016年3月期 決算説明会

2016年 5月 2日



決算概要

- 2016年3月期通期業績は、対前期増収増益（4期連続）
営業利益400億円超は、2004年3月期に次ぐ高水準
- 楽器事業は、対前期、音楽教室運営移管影響で減収も、
実質増収及び粗利率の改善等により大幅な増益
- 音響機器は、対前期増収増益
AV機器の回復、PA機器の好調な推移が牽引
- 電子部品は、対前期減収も、構造改革効果等により
損益改善黒字化で、全セグメント黒字
- 中期経営計画(YMP2016)最終年度の経営数値目標
ROEについても10%となり、主要目標を全て達成

2016/3期 通期業績概要



(億円)

| | 15/3 | 16/3 | 前期比 | 前回予想 | 前回予想比 |
|------------------|---------------|---------------|--------|---------------|-------|
| 売上高 | 4,322 | 4,355 | +0.8% | 4,370 | ▲0.3% |
| 営業利益 (営業利益率) | 301 (7.0%) | 407 (9.3%) | +34.9% | 410 (9.4%) | ▲0.8% |
| 経常利益 (経常利益率) | 312 (7.2%) | 409 (9.4%) | +31.0% | 415 (9.5%) | ▲1.4% |
| 当期利益※ (当期利益率) | 249 (5.8%) | 326 (7.5%) | +30.9% | 345 (7.9%) | ▲5.4% |

為替レート (円)

| | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 売上高 | US\$ | 110 | 120 | 121 |
| | EUR | 139 | 133 | 133 |
| 利益 | US\$ | 109 | 121 | 121 |
| | EUR | 141 | 134 | 134 |

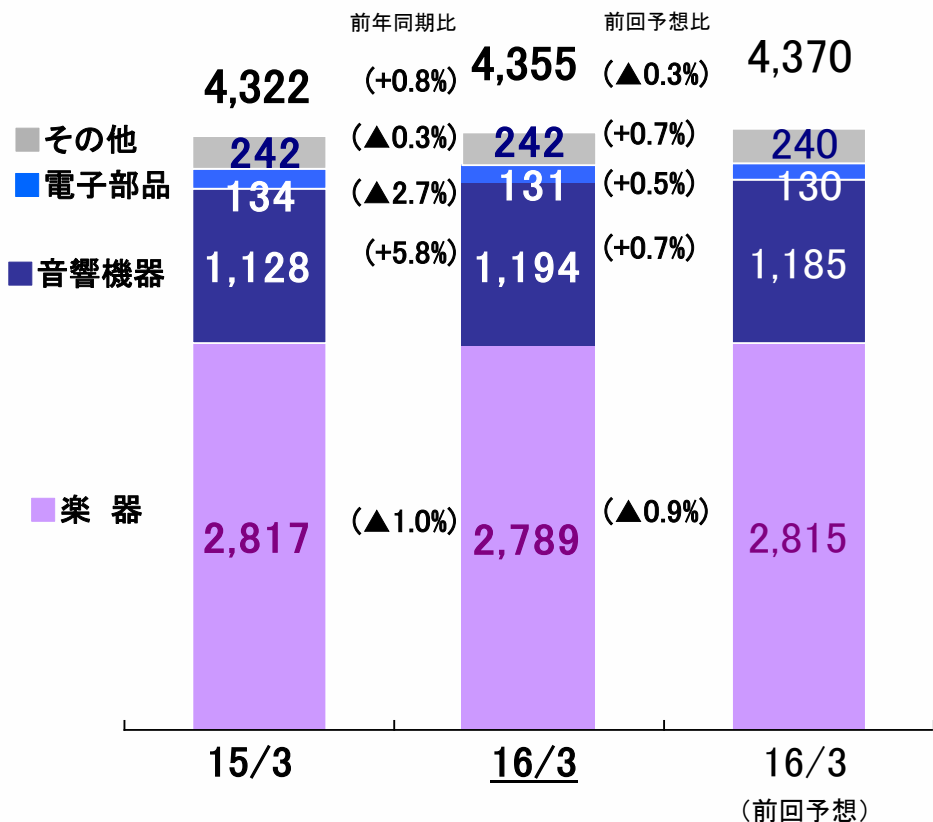
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

●前回予想は2016/2/4 発表

2016/3期 通期事業別業績

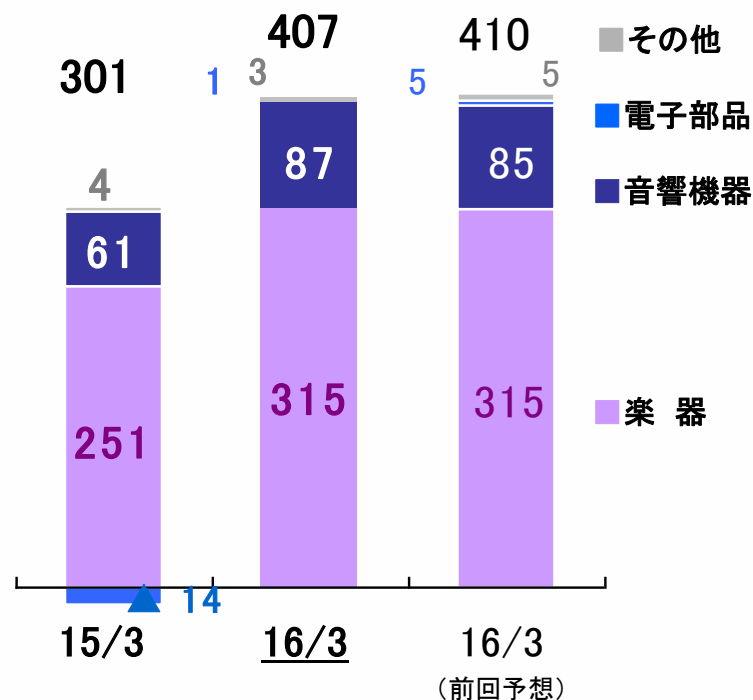


売上高



営業利益

(億円)



| 為替影響額 (億円) | |
|------------|-------------------------------------|
| 前期比較 | +44 楽器 +35 音響機器 +7 電子部品 +2 |
| 前回予想比較 | ▲30 楽器 ▲21 音響機器 ▲9 |

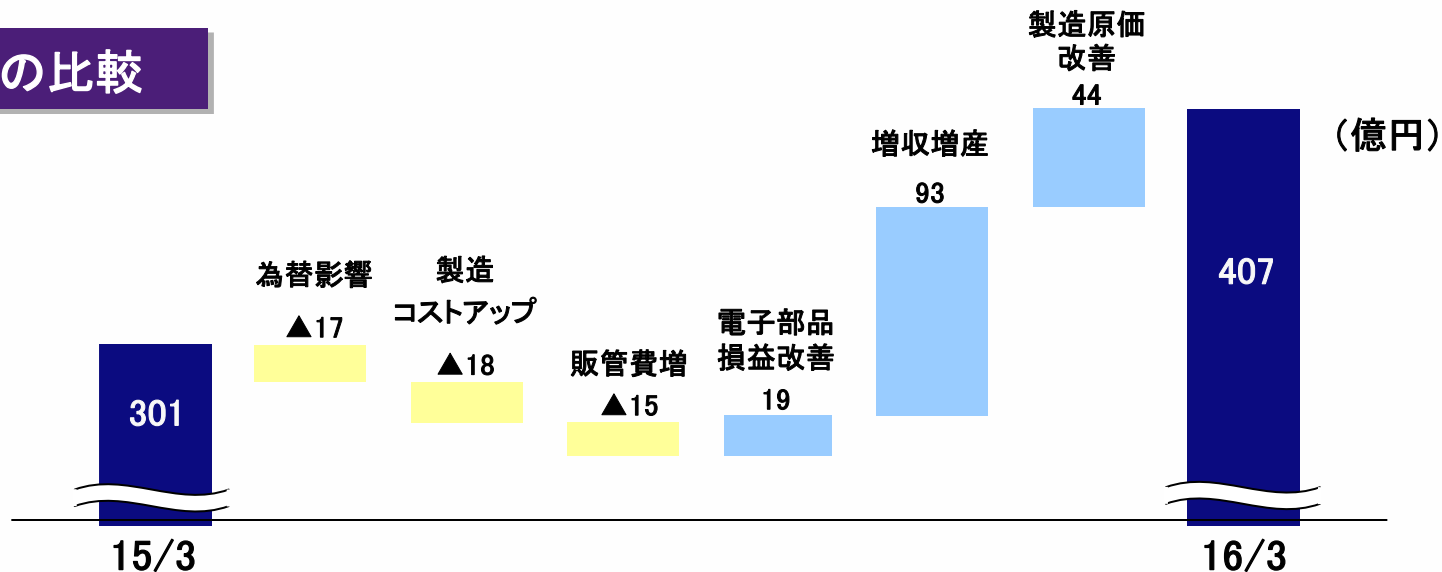
| 為替影響額 (億円) | |
|------------|-------------------------------------|
| 前期比較 | ▲17 楽器 ▲1 音響機器 ▲13 電子部品 ▲3 |
| 前回予想比較 | 0 楽器 ▲1 音響機器 +1 |

●前回予想は2016/2/4 発表

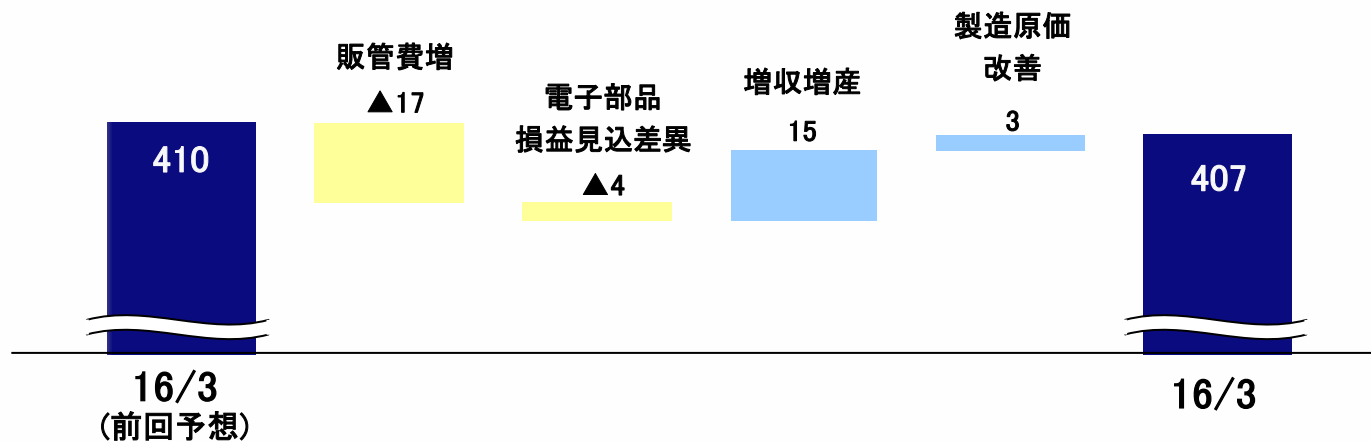
2016/3期 通期営業利益増減要因

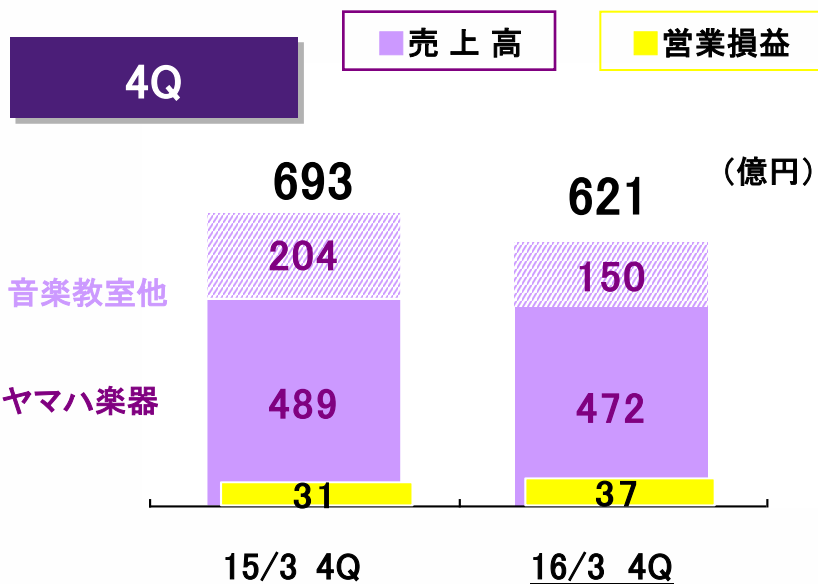


前期との比較



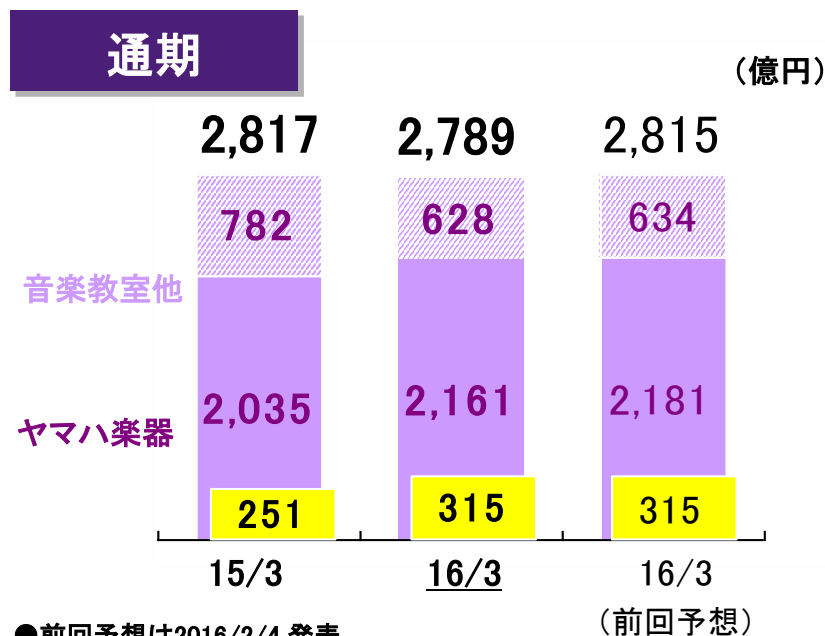
前回予想との比較





4Qの状況

- ・対前年同期減収増益
減収は為替影響及び音楽教室運営移管が主要因
- ・商品別には、電子ピアノ、管楽器、ギターが堅調
- ・製品売上全体では、為替影響を除く実質でほぼ前年同期並みの実績



通期の状況

- ・対前期減収大幅増益
- ・商品別では期を通じて電子ピアノ 管楽器、ギター等が好調に推移
- ・市場別には、欧州、中国が好調、北米堅調
- ・損益は、モデルミックス改善や製造原価低減等により大幅増益

楽器事業(地域別の販売状況)

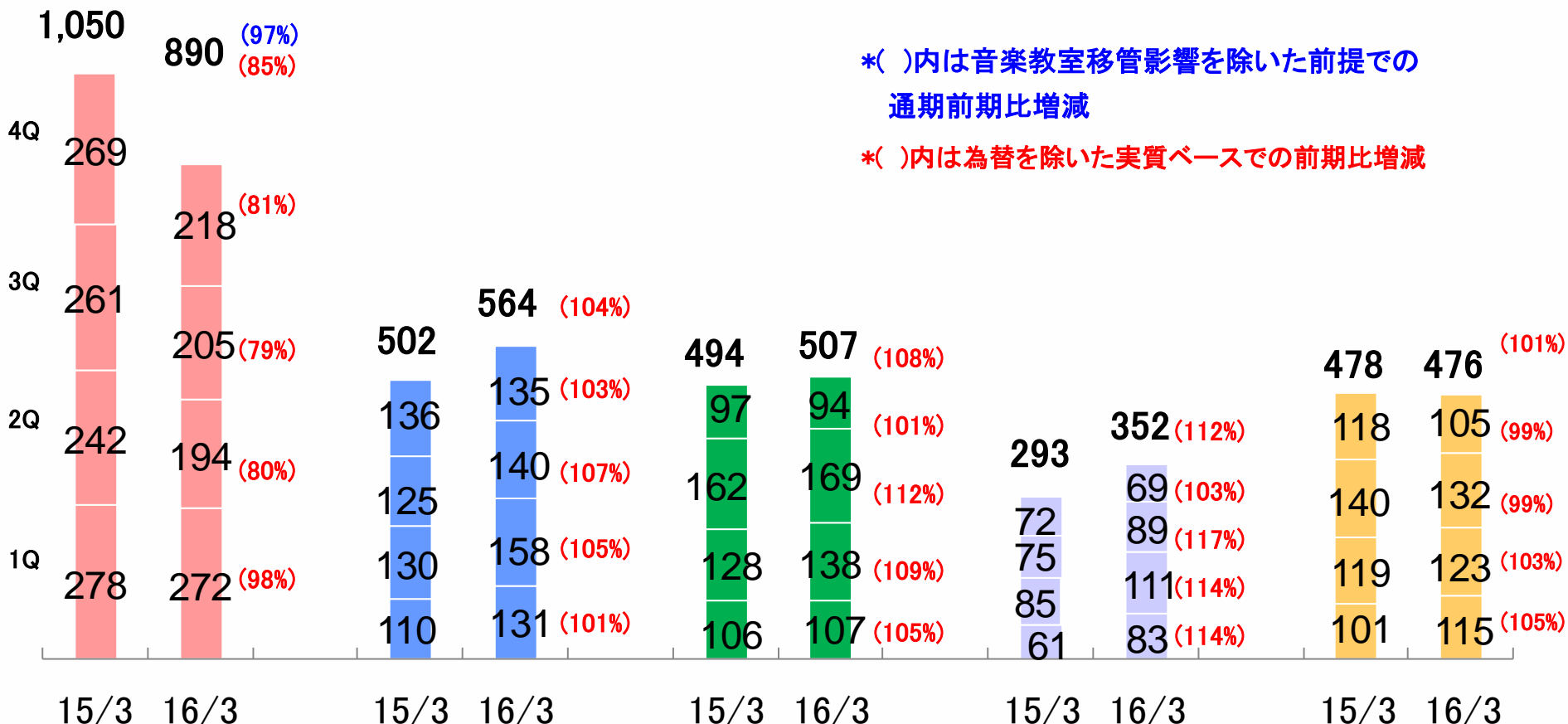


【楽器販売状況 (ソフト、音楽教室等を含む)】

(億円)

* ()内は音楽教室移管影響を除いた前提での
通期前期比増減

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



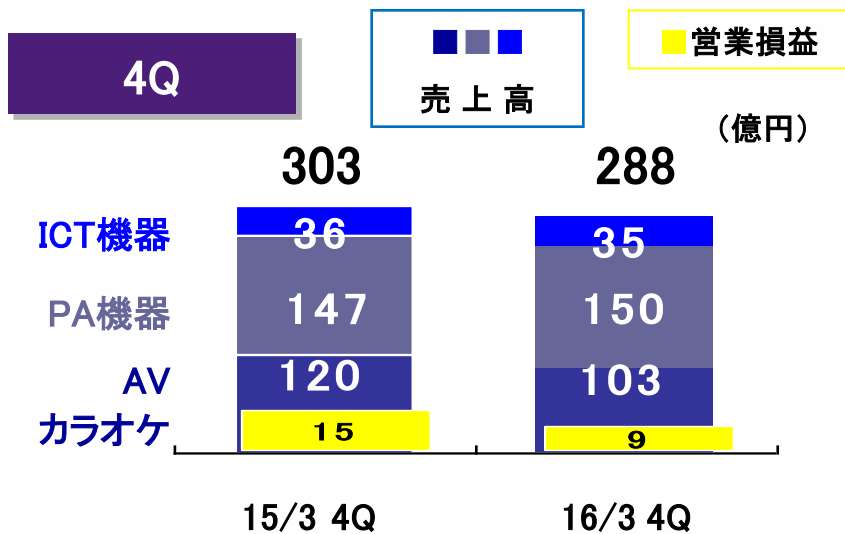
日本

北米

欧州

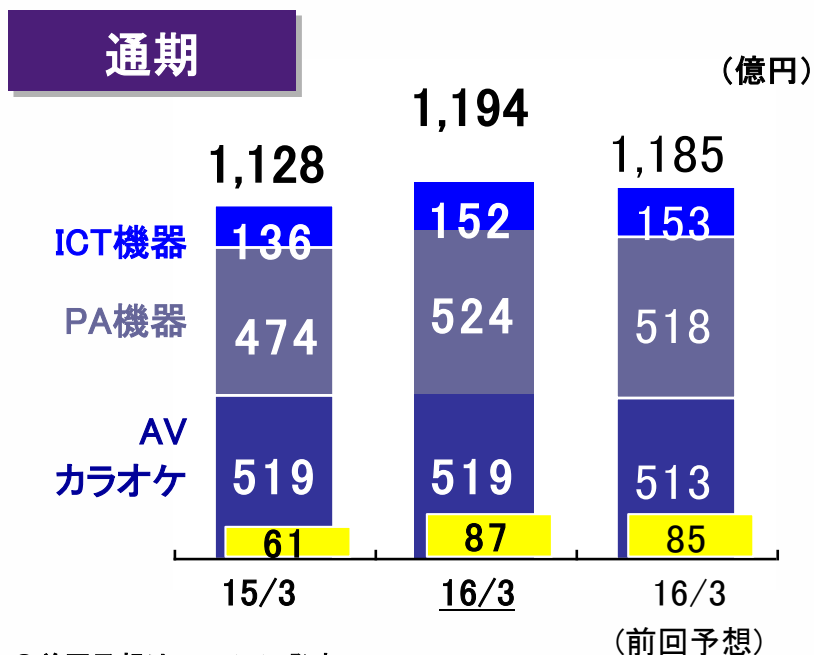
中国

その他



4Qの状況

- ・対前年同期減収減益も為替影響除外の実質ベースではほぼ前年同期並み
- ・AV機器は回復基調も実質ベースで前年同期に未達
- ・PA機器は楽器販路、国内音響設備工事が好調



通期の状況

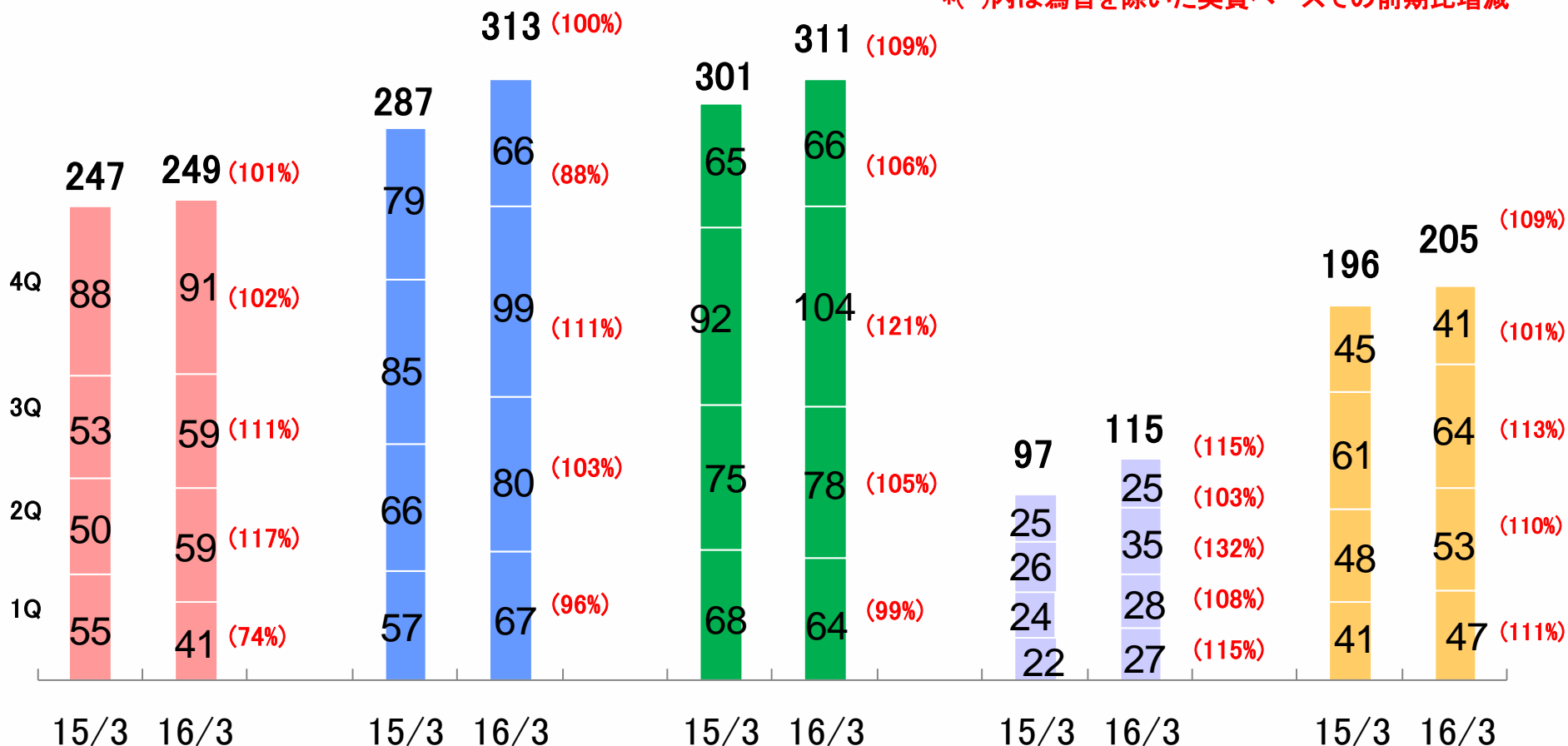
- ・対前期増収増益
- ・AV機器の新品効果等による回復とPA機器が実質二桁成長
- ・損益は、AV、PA両主力商品増益が牽引

音響機器事業(地域別の販売状況)



(億円)

*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



日本

北米

欧州

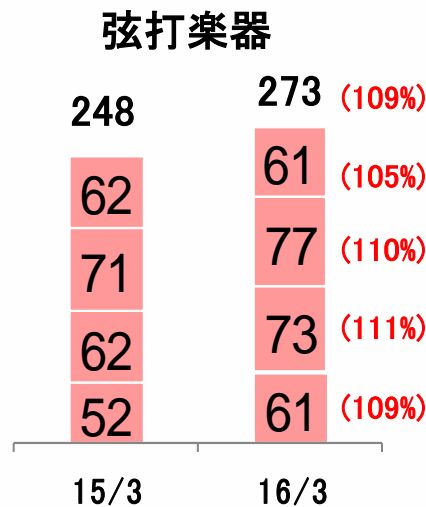
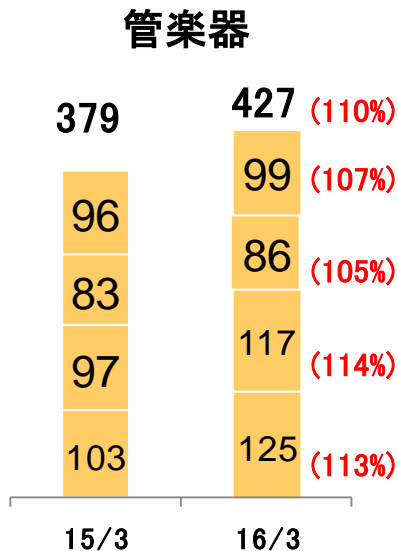
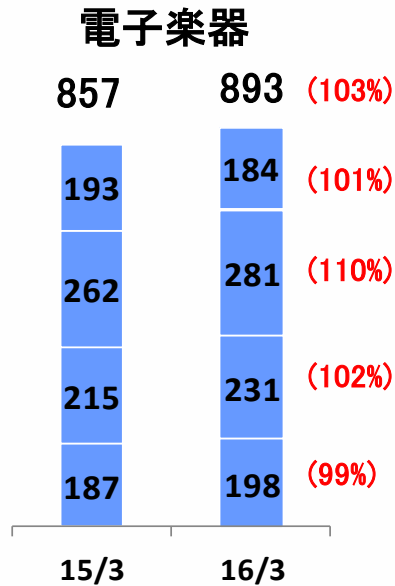
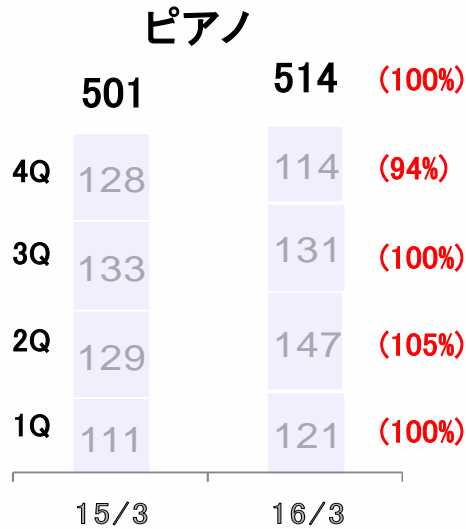
中国

その他

楽器・音響機器事業(主要商品別販売状況)

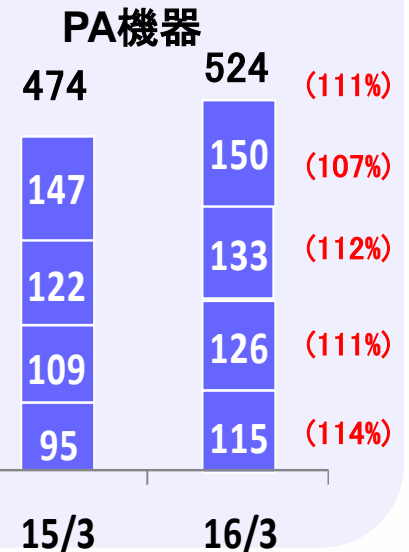
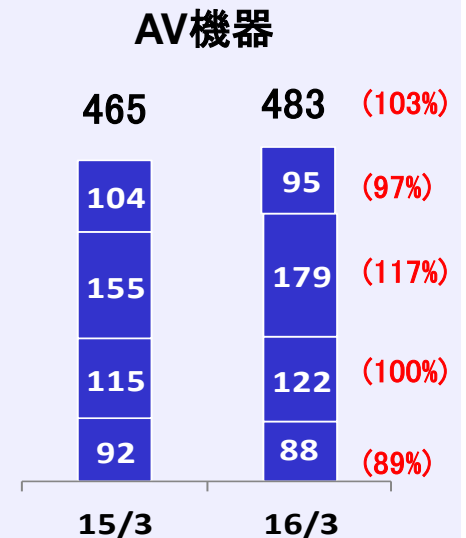


楽器事業



音響機器事業

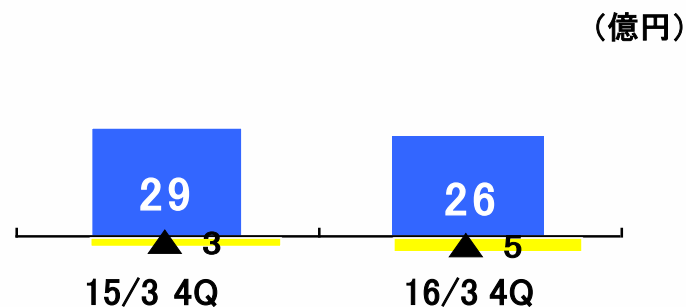
(億円)



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

■ 売上高 ■ 営業損益

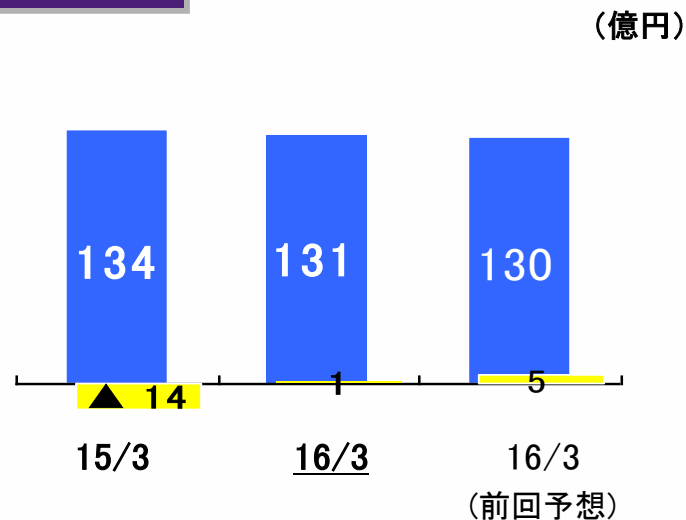
4Q



4Qの状況

- ・対前年同期、減収減益
- ・損益は、減収による粗利減及び製造損益悪化等が主要因

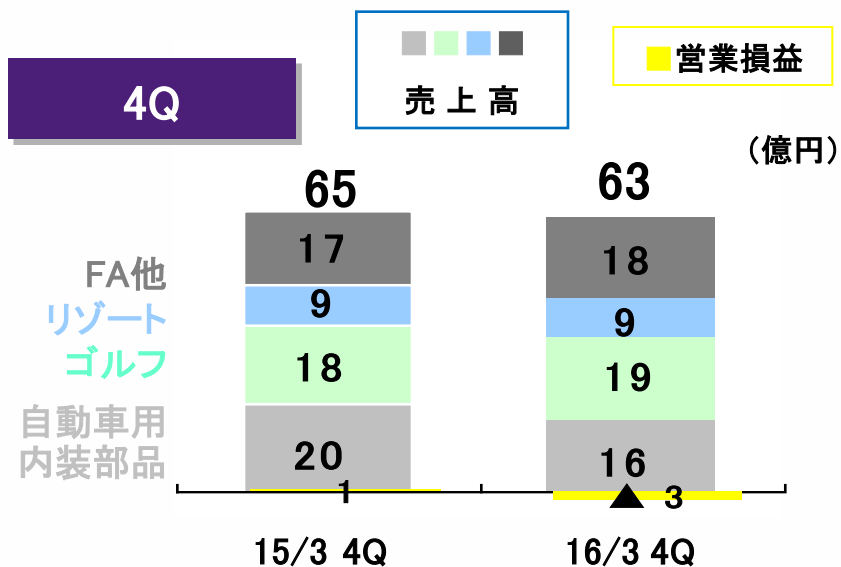
通期



通期の状況

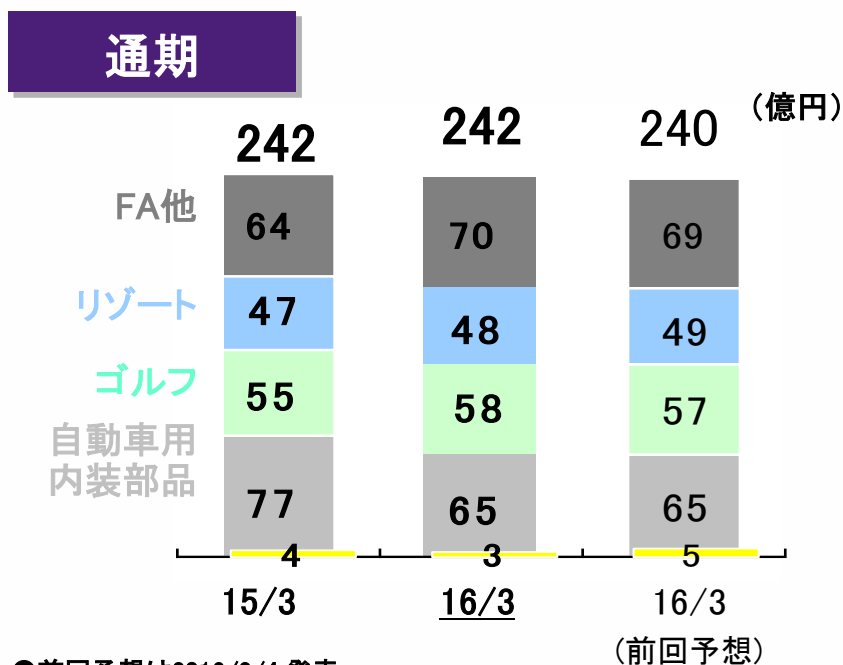
- ・対前期減収も損益改善黒字化
- ・アミューズメント向け部品が上期前倒し出荷も下期回復せず
- ・ファブレス化に伴う、固定費削減効果で黒字化

その他の事業



4Qの状況

- ・対前年同期、減収減益、営業損失
- ・前期並みの売上も、自動車用内装部品の減収及びFA事業の粗利減で損益悪化



通期の状況

- ・対前期、対前回予想並みの売上も若干の減益
- ・ゴルフは、国内市場堅調で対前期増収
- ・FA機器、リゾートも対前期増収
- ・自動車用内装部品は、対前期で減収
- ・損益悪化は、自動車内装部品の対前期減益が主要因

業績予想前提

■ 市場環境に不透明感はあるものの、各市場堅調な推移を想定

■ 楽器事業は、ピアノ、電子楽器、ギターで実質成長
各商品のシェアアップを目指す

■ 音響機器事業は、AV機器、PA機器共に
新商品の本格的な市場導入進展を想定

■ 為替前提は、US\$ 110円 ユーロ 125円

報告セグメントの変更について

・2017年3月期より、前期まで楽器事業に計上していた防音事業の実績を
音響機器セグメントに計上致します。(16/3期売上高約15億円 利益影響は軽微)

・電子部品事業セグメントを廃止し、その他の事業セグメントの中で
FA、自動車用内装部品と統合し、「部品・装置」として表記します。

* 本スライド以降 2016年3月期セグメント別売上は、新セグメントに組み替えて表示しています。

2017/3期 業績予想



➤2017年3月期は、為替による影響が大きく減収も 増益を想定

➤当期利益は、繰延税金資産計上により増加を想定

(億円)

| | 16/3 | 17/3予想 | 増減額 | 伸び率 |
|------------------|---------------|----------------|------|--------|
| 売上高 | 4,355 | 4,200 | ▲155 | ▲3.6% |
| 営業利益 (営業利益率) | 407 (9.3%) | 420 (10.0%) | +13 | +3.3% |
| 経常利益 (経常利益率) | 409 (9.4%) | 420 (10.0%) | +11 | +2.7% |
| 当期利益※ (当期利益率) | 326 (7.5%) | 455 (10.8%) | +129 | +39.4% |

為替レート (円)

| | | | |
|-----|------|-----|-----|
| 売上高 | US\$ | 120 | 110 |
| | EUR | 133 | 125 |
| 利益 | US\$ | 121 | 110 |
| | EUR | 134 | 125 |

※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

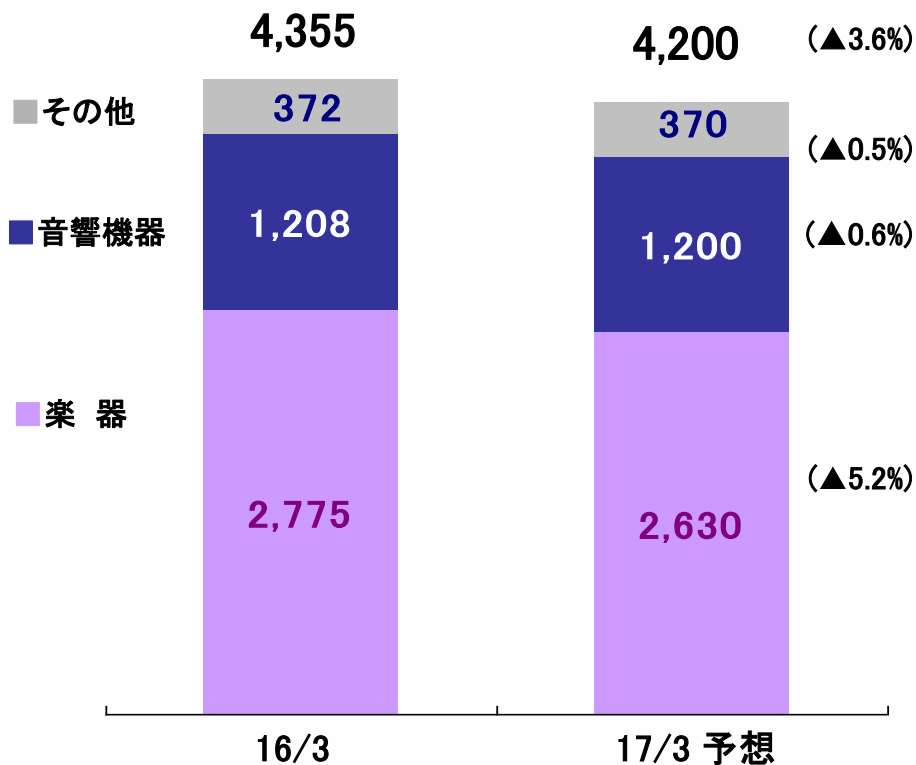
2017/3期 通期事業別業績予想



売上高

(億円)

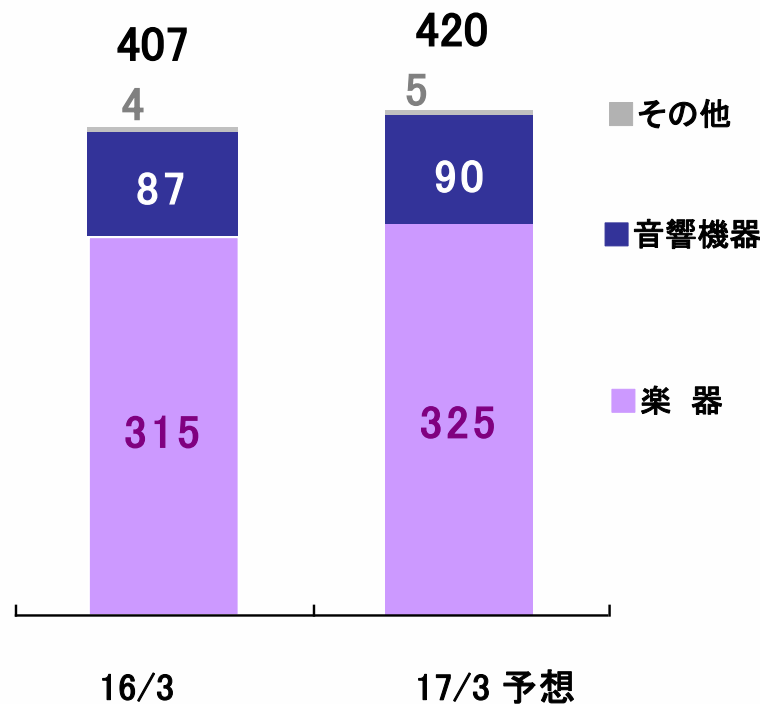
前年同期比



| 為替影響額 (億円) | |
|------------|-------------------------------|
| 前期比較 | ▲242 |
| | 楽器 ▲159 音響機器 ▲79 その他 ▲5 |

営業利益

(億円)



| 為替影響額 (億円) | |
|------------|------------------------------|
| 前期比較 | ▲65 |
| | 楽器 ▲52 音響機器 ▲14 その他 +1 |

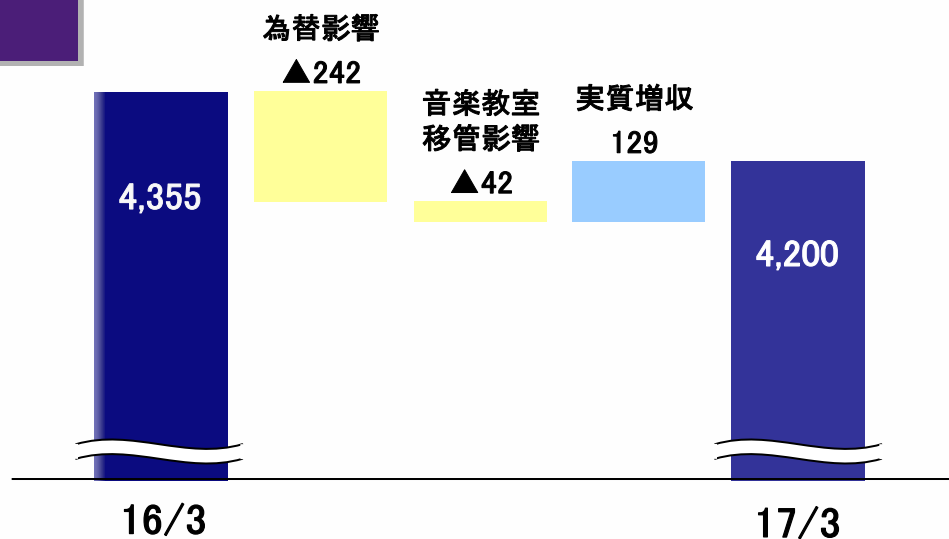
*16/3期売上は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

2017/3期 売上高・営業利益予想増減要因

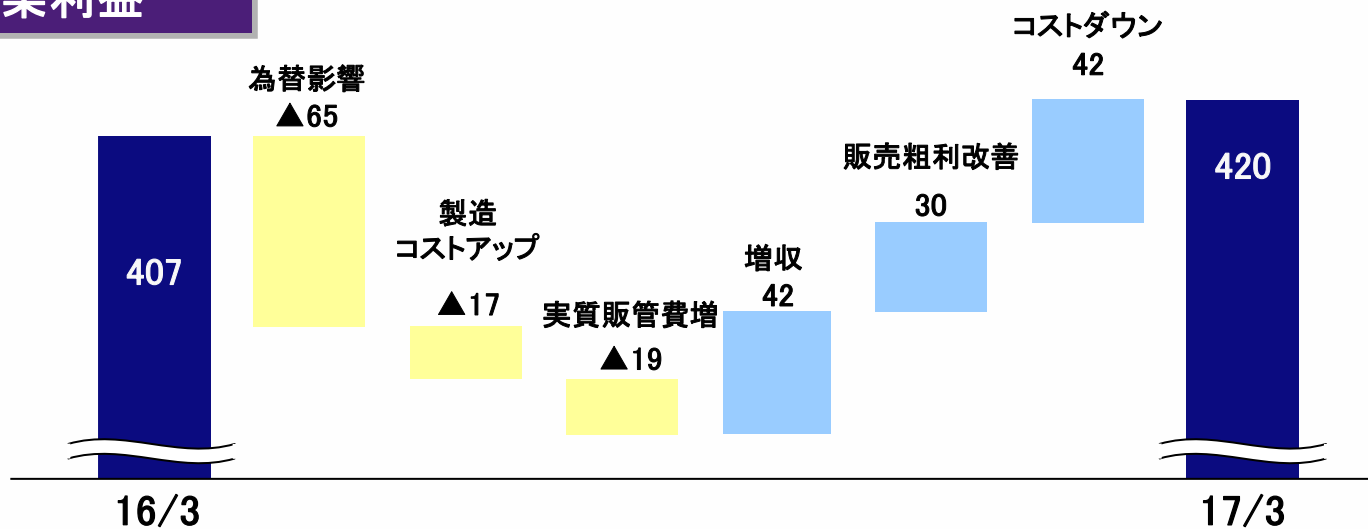


(億円)

売上高



営業利益

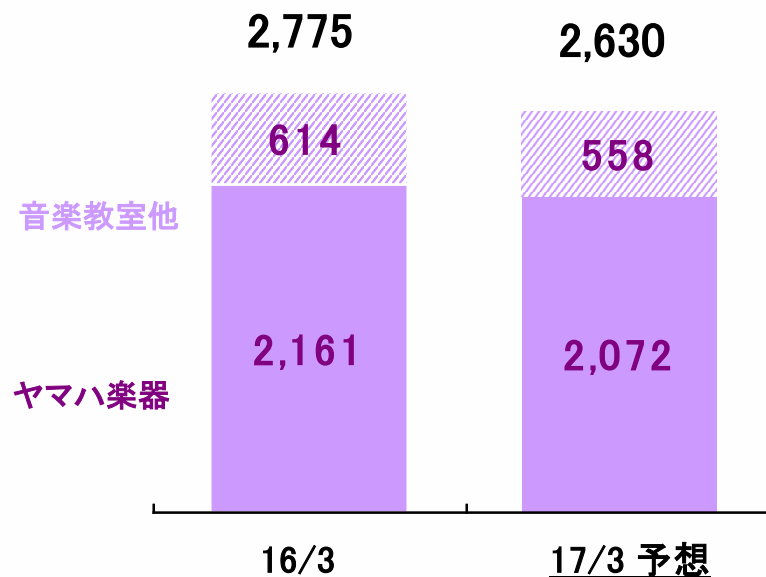


通期予想

- ・対前期、減収増益
- ・減収は、為替影響及び音楽教室運営移管が主要因
- ・ピアノ、電子ピアノを中心に実質増収を想定
- ・損益は、為替による減益影響を、販売価格適正化や製造原価低減、のれん償却減等で補い増益を目指す

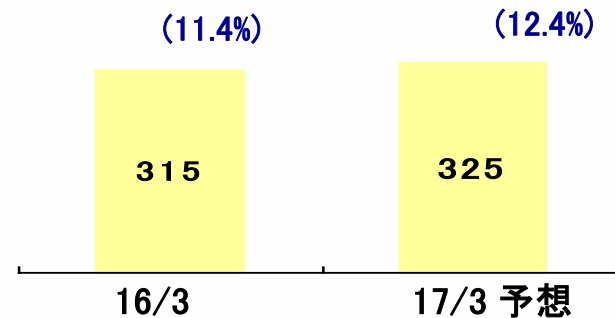
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



*16/3期売上は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

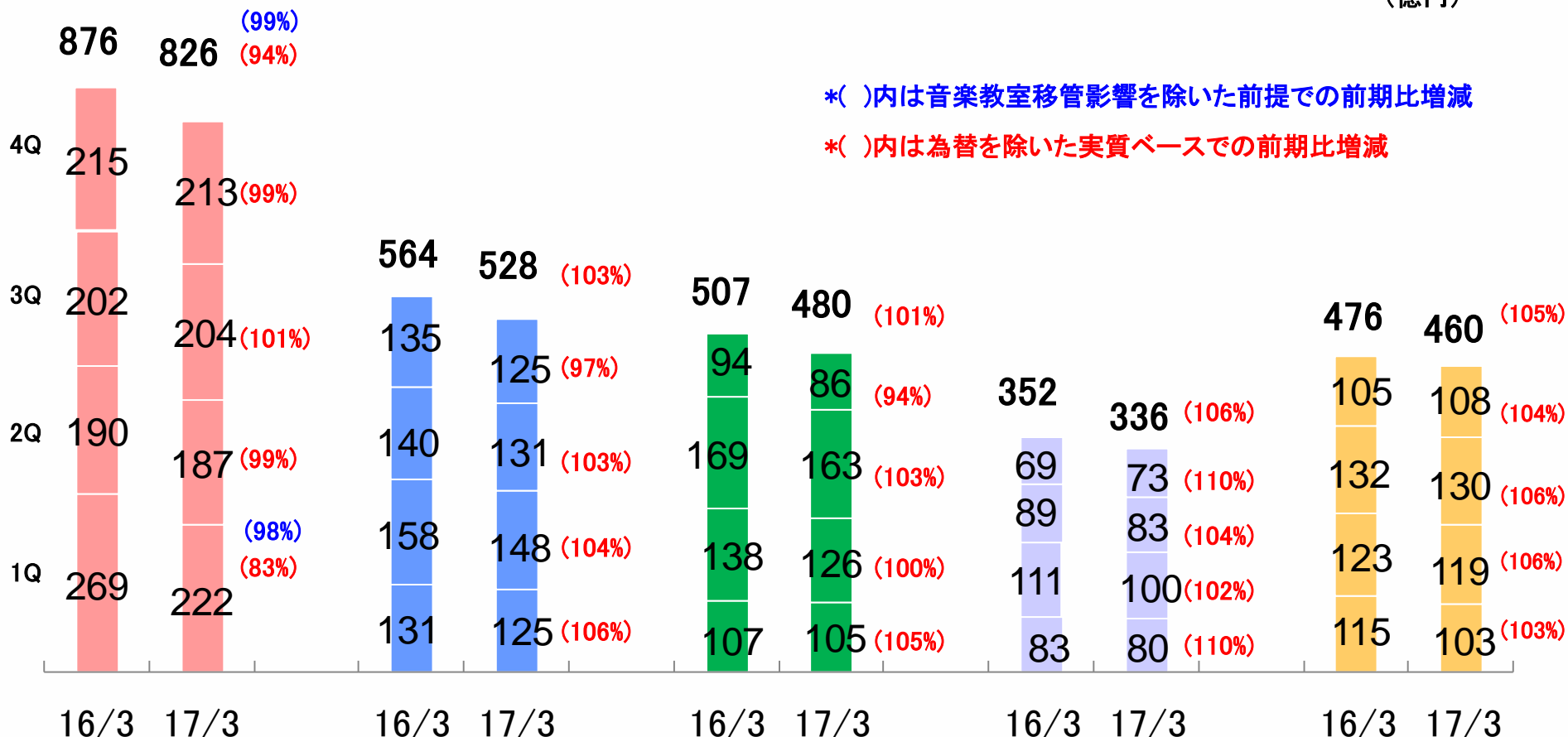
*()内は営業利益率

楽器事業(地域別の販売予想)



【楽器販売予想 (ソフト、音楽教室等を含む)】

(億円)



日本

北米

欧州

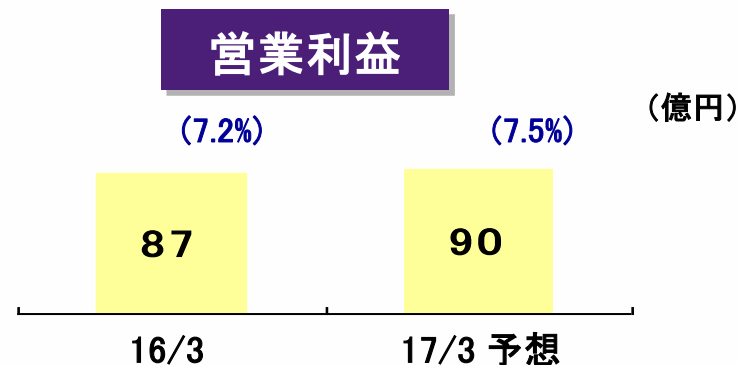
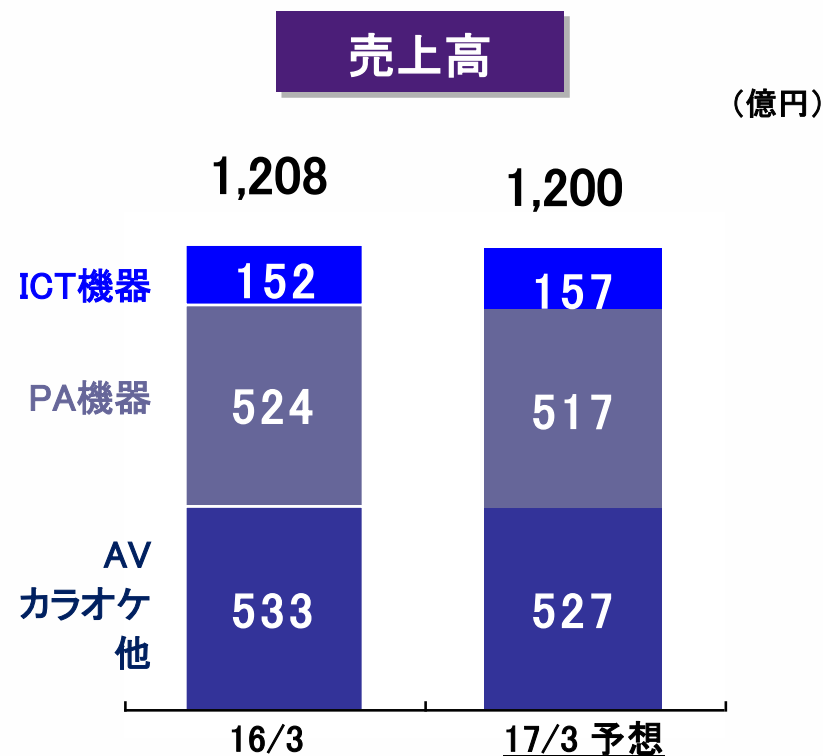
中国

その他

*16/3期売上は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

通期予想

- ・対前期、減収増益
- ・AV機器 PA機器 通信機器など実質増収想定
- ・損益は、為替による減益影響を、実質増収
販売価格適正化、製造原価低減
のれん償却減等で補う計画



*16/3期売上は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

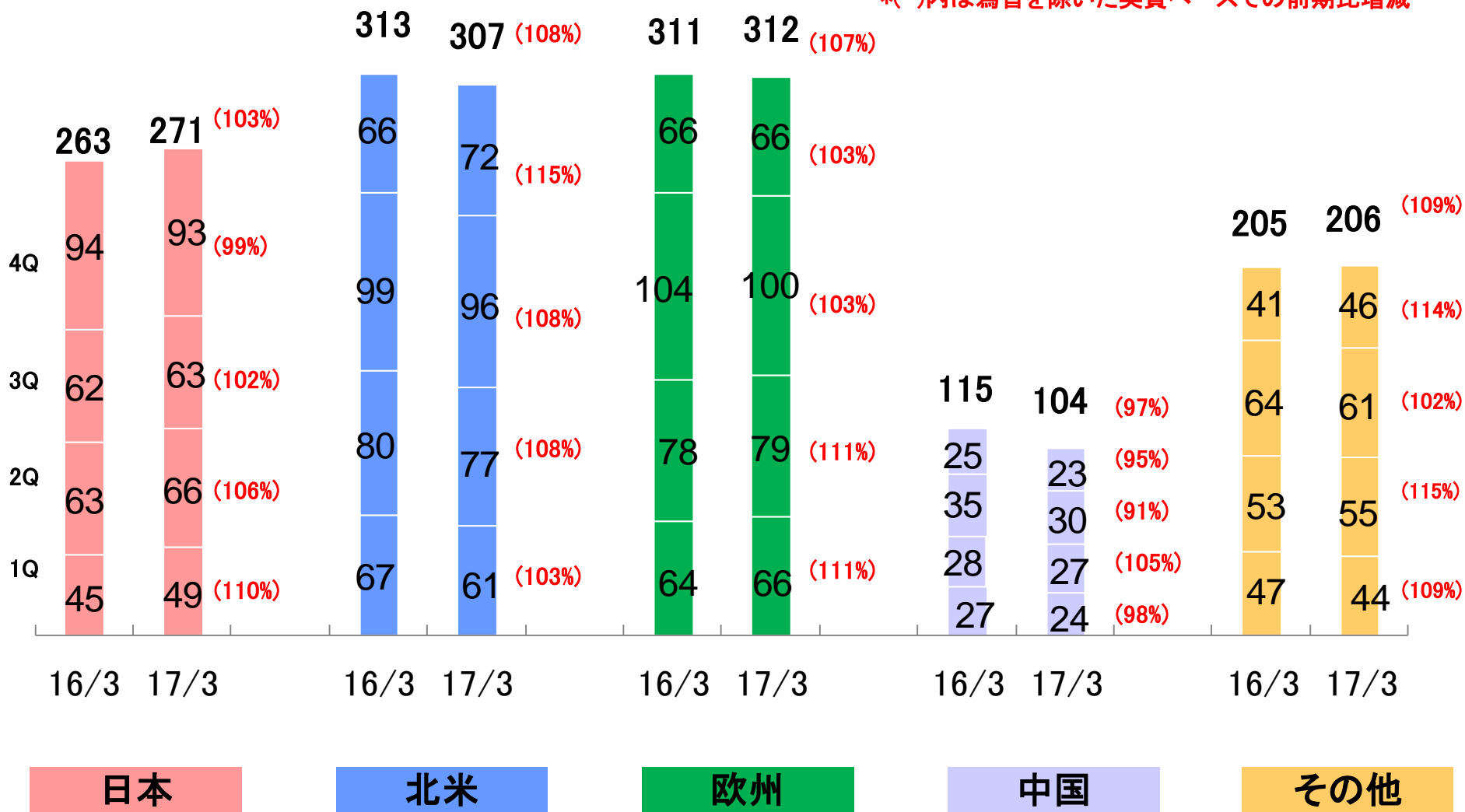
*()内は営業利益率

音響機器事業(地域別の販売予想)



(億円)

*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



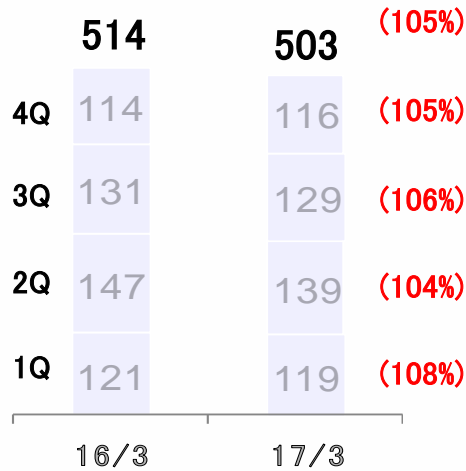
*16/3期売上は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

楽器・音響機器事業(主要商品別販売予想)

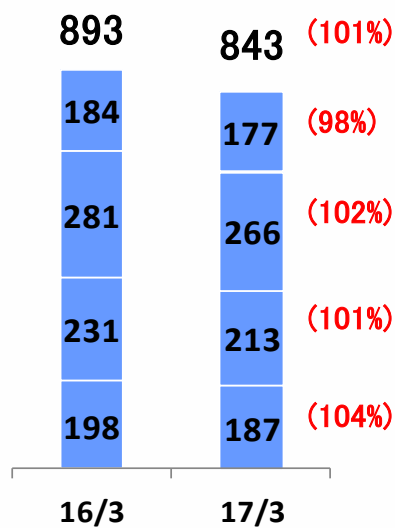


楽器事業

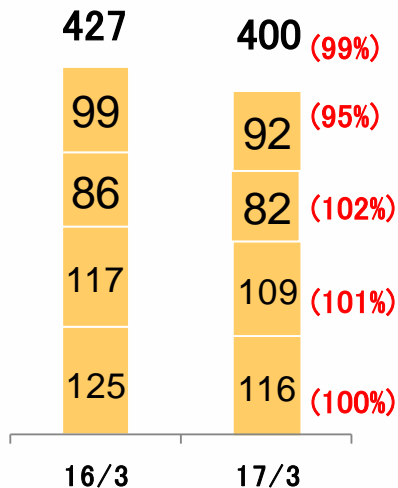
ピアノ



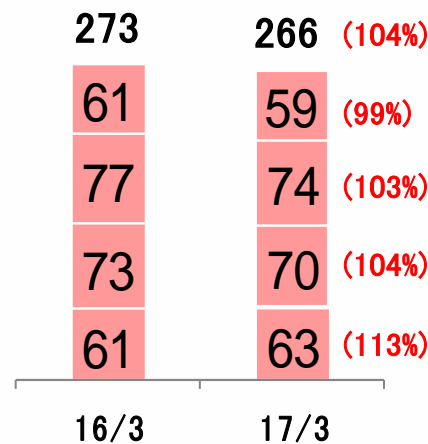
電子楽器



管楽器



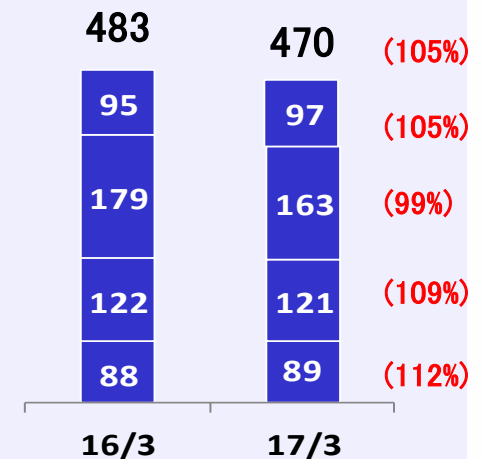
弦打楽器



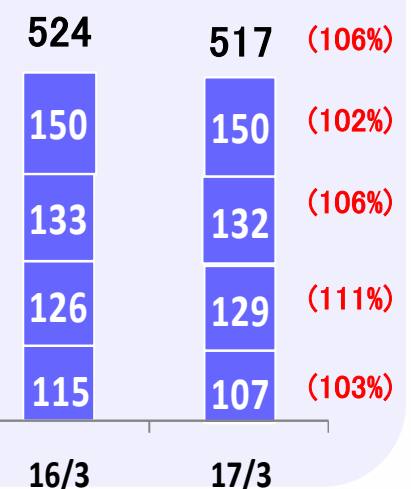
音響機器事業

(億円)

AV機器



PA機器

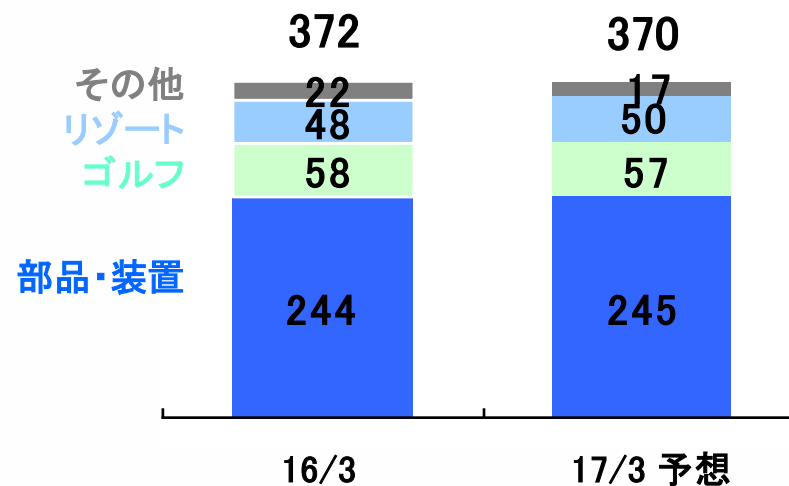


* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

その他の事業（予想）

売上高

(億円)

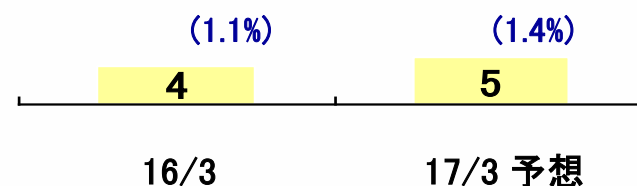


通期予想

- ・電子部品事業は「その他の事業」に含めて表記
- ・売上高、営業利益は前期並みを想定

営業利益

(億円)



* ()内は営業利益率

通期営業外損益、特別損益



| (億円) | 15/3 通期 | 16/3 通期 | 17/3 通期予想 |
|--------------|---------|---------|-----------|
| 営業外損益 | | | |
| 金融収支 | 26 | 27 | 33 |
| その他 | ▲15 | ▲25 | ▲33 |
| 計 | 11 | 2 | 0 |
| 特別損益 | | | |
| 固定資産処分損益 | 0 | 83 | ▲2 |
| その他 | ▲27 | ▲76 | 2 |
| 計 | ▲27 | 7 | 0 |
| 法人税他 | | | |
| 法人税等 | 73 | 95 | 99 |
| 法人税等調整額 | ▲39 | ▲6 | ▲135 |
| 少数株主利益 | 2 | 1 | 1 |
| 計 | 36 | 90 | ▲35 |

構造改革費用 ▲18
固定資産減損 ▲9

遊休資産売却 90
その他 ▲7

のれん一時償却
Line 6 ▲45
Revolabs ▲23
固定資産減損 ▲8

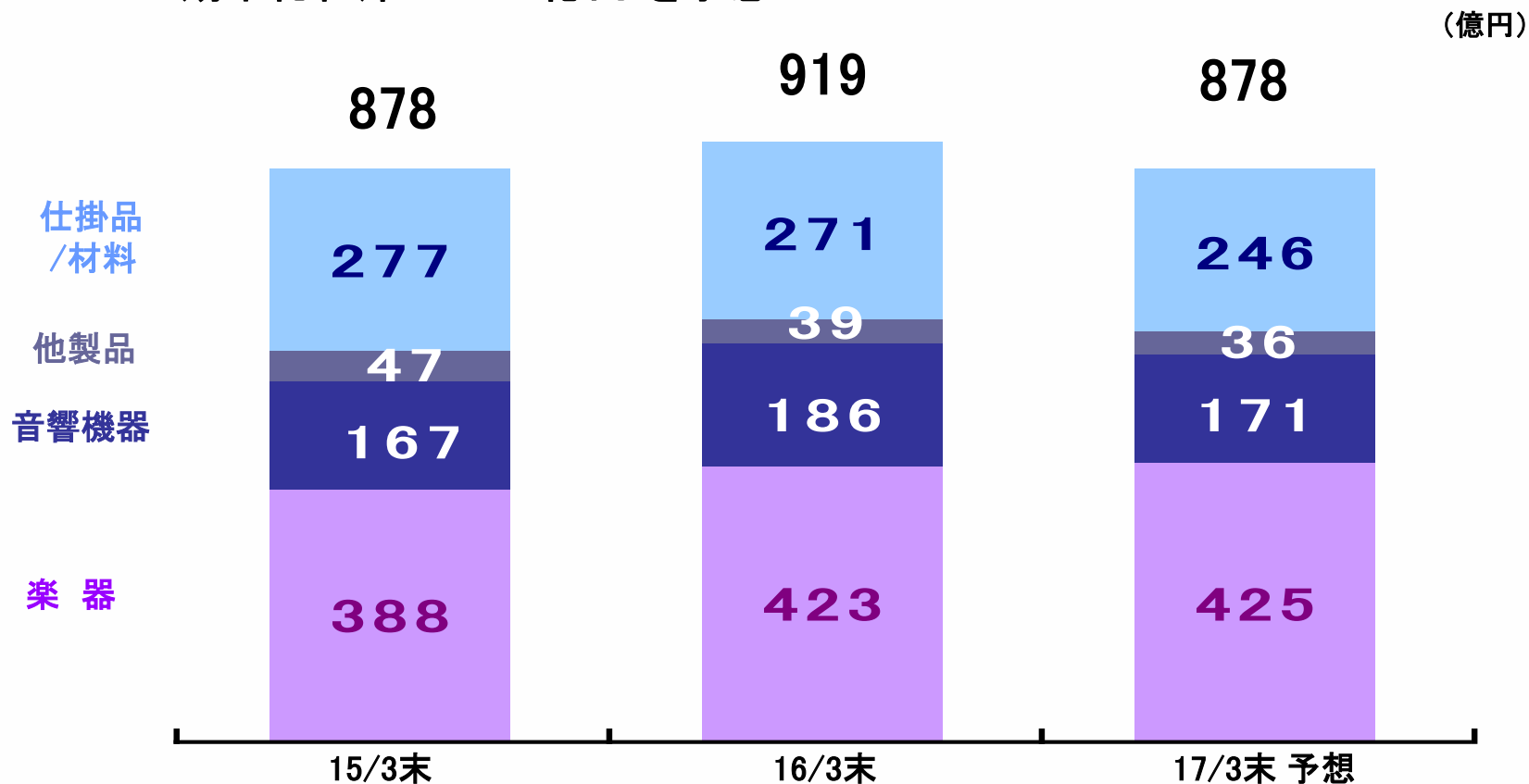
- 4Qにおいて米国子会社Revolabsののれんの一部23億円を一時償却し、特別損失に計上しました。
- 最近の損益改善に伴い17/3期から繰延税金資産計上範囲が拡大、135億円の計上を想定

棚卸資産



➤ 16/3期末総在庫は919億円 対前期で為替影響大きく、実質では大幅増

➤ 17/3期末総在庫は 878億円 を予想



| 為替影響額 (億円) | |
|------------|-----|
| 前期比較 | ▲47 |

| 為替影響額 (億円) | |
|------------|-----|
| 前期比較 | ▲13 |

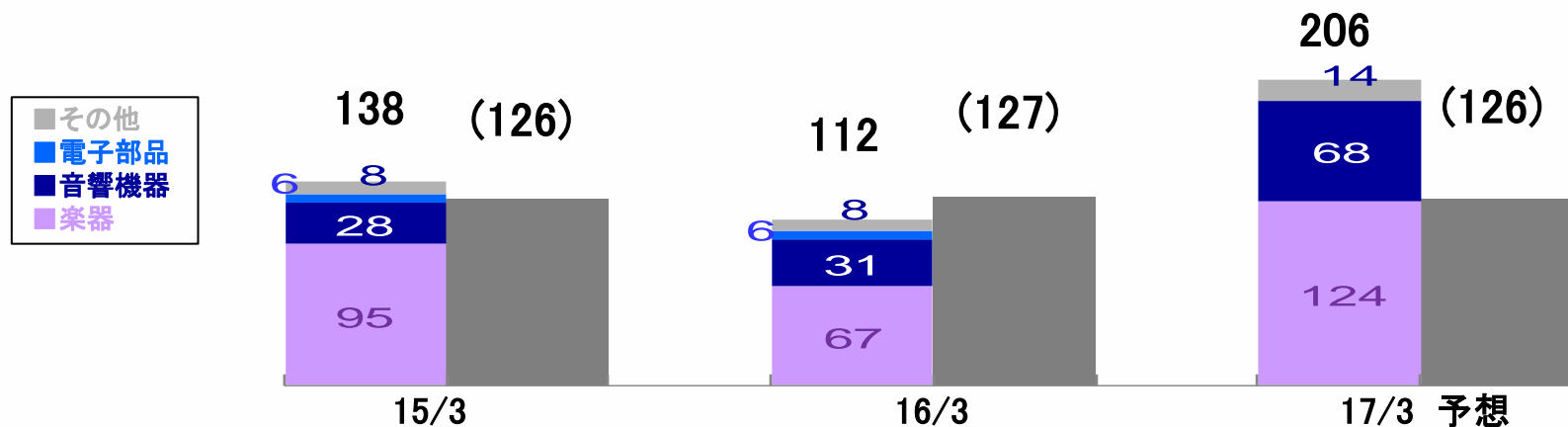
設備投資額・減価償却費/研究開発費



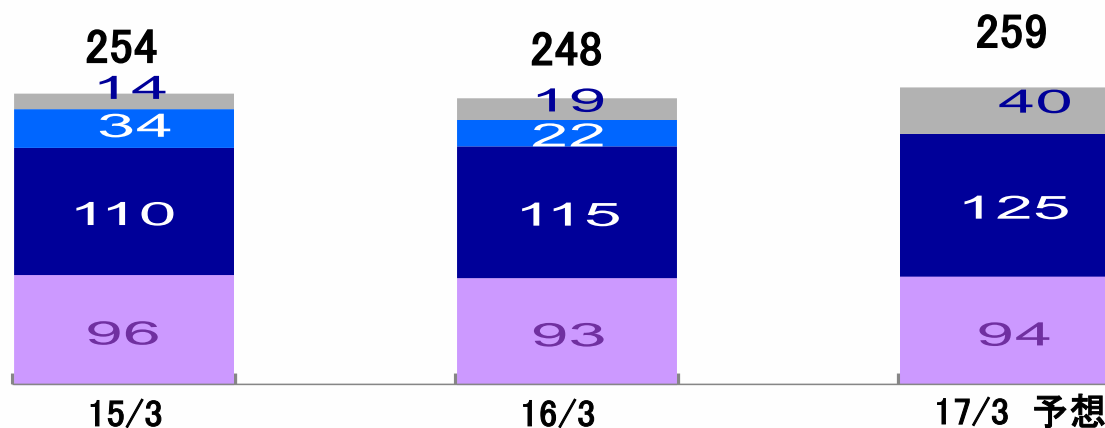
設備投資額(減価償却費)

(億円)

- ▶17/3期設備投資は、本社開発棟建設や海外生産拠点整備等で対前期増加
- ▶17/3期より、全てのグループ会社の償却方法を定額法へ変更統一



研究開発費



貸借対照表



(億円)

| | 15/3末 | 16/3末 | 17/3末 予想 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 現金 | 793 | 882 | 980 |
| 売上債権 | 603 | 478 | 485 |
| 棚卸資産 | 878 | 919 | 878 |
| 他流動資産 | 202 | 272 | 237 |
| 固定資産 | 2,824 | 2,146 | 2,295 |
| 資産計 | 5,300 | 4,697 | 4,875 |
| 仕入債務 | 232 | 194 | 203 |
| 借入金 | 118 | 85 | 105 |
| 他負債 | 1,463 | 1,379 | 1,206 |
| 純資産計 | 3,487 | 3,039 | 3,361 |
| 負債純資産計 | 5,300 | 4,697 | 4,875 |

経営数値推移



| | 15/3 | 16/3 | 17/3 | 中計目標 19/3 | (億円) |
|--------|-------|-------|-------|--------------|------|
| 売上高 | 4,322 | 4,355 | 4,200 | 4,650 | |
| 営業利益 | 301 | 407 | 420 | 550 | |
| 営業利益率 | 7.0% | 9.3% | 10.0% | 12% | |
| ROE | 8.1% | 10.1% | 14.3% | 10%水準 | |
| EPS(円) | 129 | 169 | 243 | 200円水準 | |

為替レート (円)

| | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 売上高 | US\$ | 110 | 120 | 110 | 115 |
| | EUR | 139 | 133 | 125 | 125 |
| 利益 | US\$ | 109 | 121 | 110 | 115 |
| | EUR | 141 | 134 | 125 | 125 |

株主還元 ≪自己株式取得及び配当≫



➤2月4日取締役会決議に基づく自社株式取得を完了

| | |
|-----------|---------------------|
| 【理由】 | 株主還元と資本効率の向上を図るため |
| 【取得株式の種類】 | 当社普通株式 |
| 【取得総数】 | 6,182,400株 |
| 【取得総額】 | 200億円 |
| 【取得期間】 | 平成28年2月5日～平成28年4月8日 |
| 【取得方法】 | 信託方式による市場買付 |

➤2016年3月期 年間配当は44円、2017年3月期は年間配当52円を予定

| | 12/3 | 13/3 | 14/3 | 15/3 | 16/3 | 17/3 (予想) |
|-----------------------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 1株あたりの 年間配当 (円) | 10 | 10 | 27 | 36 | 44 | 52 |
| 配当性向 | - | 47.0% | 22.8% | 28.0% | 26.1% | 21.4% |

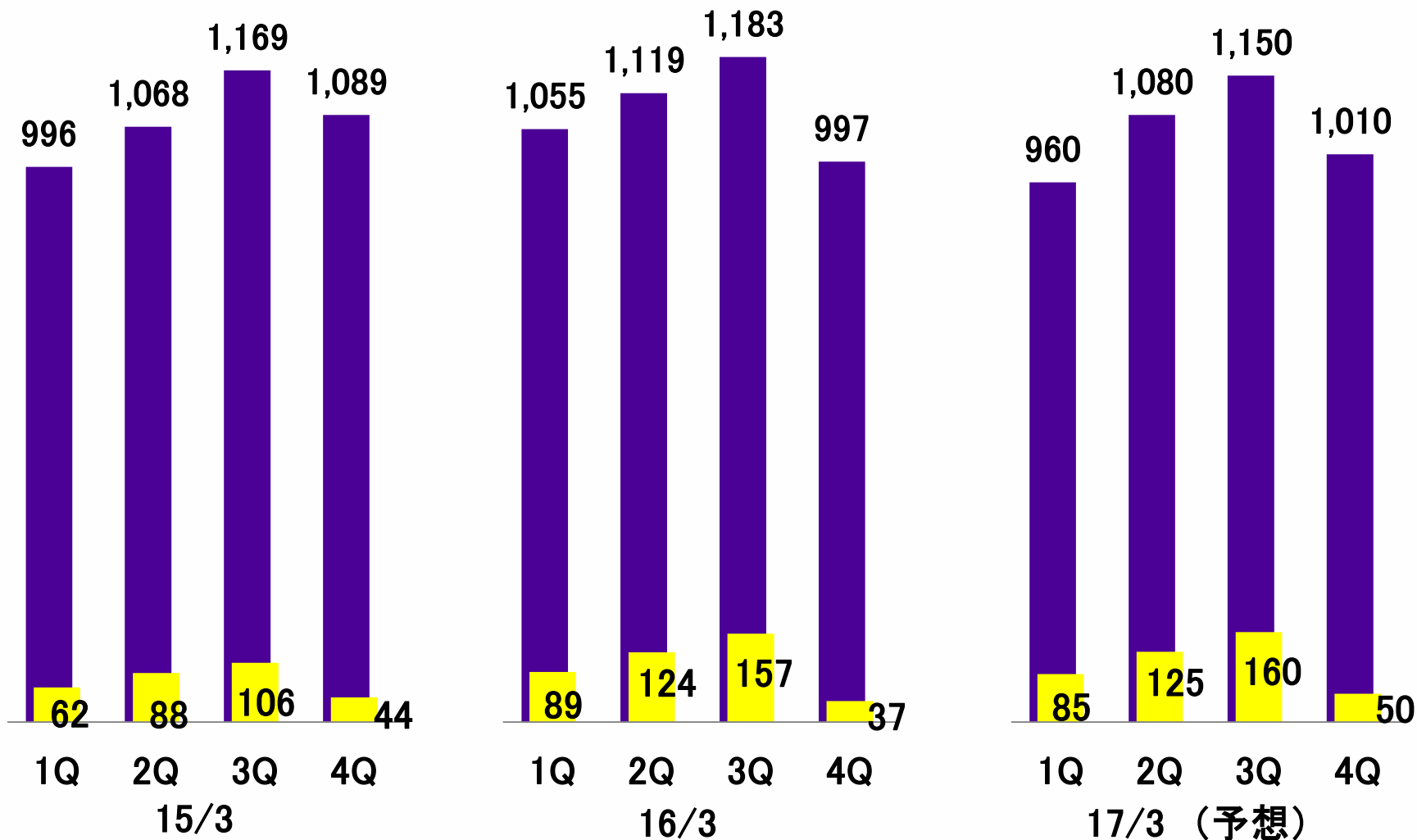
* 税効果影響を除外した17/3期の配当性向は30.5% (参考数値)

付属資料

四半期別売上高／営業利益(全体)



(億円)



| | |
|----------|-------|
| 売上高(通期) | 4,322 |
| 営業利益(通期) | 301 |

| | |
|----------|-------|
| 売上高(通期) | 4,355 |
| 営業利益(通期) | 407 |

| | |
|----------|-------|
| 売上高(通期) | 4,200 |
| 営業利益(通期) | 420 |

ピアノの響板で電子音を発音する新テクノロジーを搭載
TransAcoustic技術搭載モデルにグランドピアノ含む5品番を追加発売
ヤマハ『トランスアコースティック ピアノ』



ヤマハ トランスアコースティックピアノ
『YUS1SHTA』



ヤマハ トランスアコースティックピアノ
『C3X-SHTA』



トランスデューサー(加振器)



TransAcoustic™

トランスデューサー(加振器)が電子音の情報を振動に変換して響板に伝えることにより、ピアノの響板がスピーカーの役割となり、ピアノ全体が共鳴するアコースティックならではの豊かな響きが生まれます。

エフェクターなど外部の接続機器を必要とせず、ギター本体からリバーブやコーラスといったエフェクトサウンドを生み出すことのできるギター

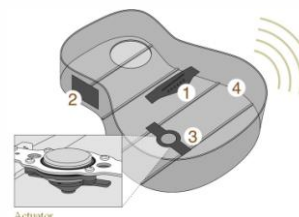
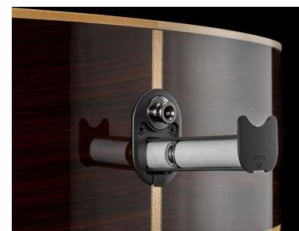
ヤマハ『トランスアコースティックギター』

TransAcoustic™



Play, listen...be inspired

The Yamaha TransAcoustic Guitar is the most inspiring, engaging acoustic guitar you've ever played. Once you've experienced it, you'll never want to play another guitar.



LL-TA Vintage Tint



LS-TA Brown Sunburst

カスタムバイクの世界観と、日本のモノづくりの技術、ヤマハのクラフトマンシップ
を融合した新モデルシリーズ

ヤマハ エレキギター『Revstarシリーズ』

ヤマハの強みとギタリストが求めるギターのスタイルを追求して開発され、10数年ぶりに新しいデザインのボディシェイプが採用された、エレキギターの新シリーズです。

ヤマハラしさと日本らしさを表現するために、1960年代にロンドンで発祥したcustom motorbikes、Café Racerの、余分な装備をはずした外見と古びた工業品のもつ独特の温かみを特徴とする世界観をデザインコンセプトとして採用した幅広いジャンルの音楽とプレーヤーにマッチするエレキギターです。



斬新で美しく立体的なデザインを採用したエレクトリックバイオリン ヤマハ エレクトリックバイオリン『YEV104』『YEV105』

斬新で美しいデザインとステージユースに適した高い性能を兼ね備えたエレクトリックバイオリンです。



ヤマハ エレクトリックバイオリン
『YEV104』(カラー:ナチュラル)

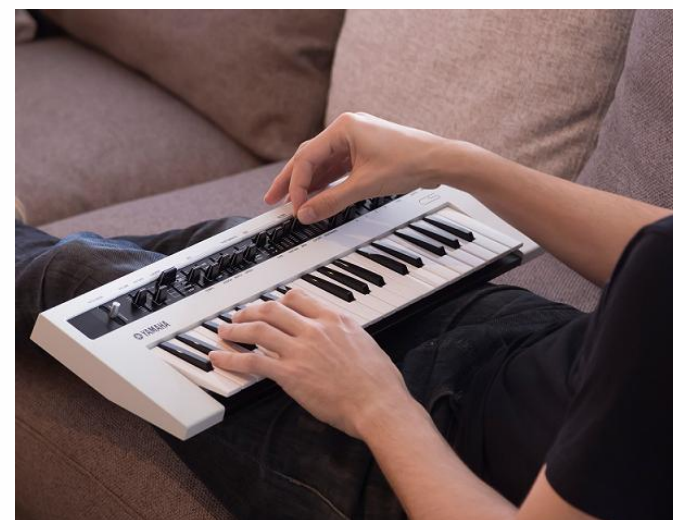


ヤマハ エレクトリックバイオリン
『YEV105』(カラー:ブラック)



好評を博したシンセサイザーなどを現代風にアレンジした4機種 ヤマハ コンパクトシンセサイザー『reface』シリーズ

CS、DX、CP、YCと歴代のヤマハシンセサイザーやキーボードの特色ある音源を搭載し、新開発のコンパクトな鍵盤「HQ mini」を搭載するなど、本格的な演奏性を実現していることに加えて、スピーカー内蔵で、乾電池での駆動もできるので、どこでも気軽に本格的な演奏を楽しむことができます。



ヤマハコンパクトシンセサイザー『reface』シリーズ
写真左から 上段『reface CS』『reface DX』 下段『reface YC』『reface CP』

好評のLine 6 社ギター周辺機器の各シリーズに新製品が登場

Line 6 ギタープロセッサー『Helix Rack』 Line 6 ギター・ワイヤレス・システム『Relay G10』

『Helix Rack』は、2015年11月に発売した新世代のプロスペック・ギタープロセッサー「Helix」のラックタイプで、リアルなサウンドを提供するパワフルなモデリングエンジンを搭載しています。

『Relay G10』は、シンプルなデザインで簡単に操作できる、高品位なギター・ワイヤレス・システムです。



Line 6 ギタープロセッサー『Helix Rack』



Line 6 ギター・ワイヤレス・システム
『Relay G10』

大規模ライブコンサートにおける音響システムの新世代フラッグシップ ヤマハ デジタル・ミキシング・システム『RIVAGE PM10』

サウンドクオリティ、操作性、機能、信頼性、拡張性など、あらゆる要素を徹底的に磨き抜いた、真のフラッグシップ。世界が認める「PM」の名にふさわしい新世代のミキシングシステムが、進化を続ける現代のPAシーンに次なる革新をもたらします。



新機能「MusicCast」を使ったネットワーク機能、D/Aコンバーター、
ワイドFM/AMチューナーを搭載し、ハイレゾ音源に対応したネットワークHiFiレシーバー

ヤマハ ネットワークHiFiレシーバー『R-N602』

ハイレゾ音源を含むネットワーク上の音楽コンテンツの再生や新機能「MusicCast」を使ったスマートフォン/タブレットでの操作を実現するネットワーク機能、インターネットラジオ機能、ワイドFM/AMチューナー、Wi-FiやBluetoothオーディオ機能などを搭載し、さらにヤマハ伝統の“TOP-ART”思想に基づく高音質ディスクリット構成パワーアンプやフォノ（MM）を含む計5系統のアナログ音声入力など、プレミアムアンプとしての魅力も追求したネットワークHiFiレシーバーです。



ヤマハ ネットワークHiFiレシーバー『R-N602』



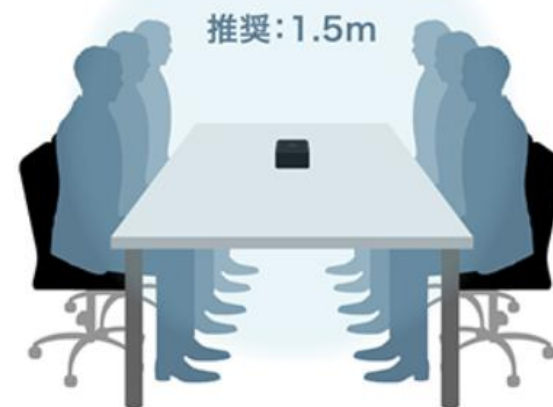
内蔵Wi-Fi機能の使用例
(家庭内ネットワークにワイヤレス接続)



Wireless Directの使用例
(スマホ/タブレットと直接ワイヤレス接続)

少人数の会議向けユニファイドコミュニケーション用スピーカーフォン Revolabs社 USBスピーカーフォン 『FLX UC 500』

「FLX UC 500」は、設備音響業界最高レベルのRevolabs社の技術力を活かして開発・製造された、中会議室向け高性能マイクとスピーカーを搭載し、PCを中心とした6人程度のWeb会議などでの利用に最適なユニファイドコミュニケーションのためのマイクスピーカーです。



Revolabs社 FLX UC 500

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。